

短歌

令和四年度阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

自由題 入選

黙禱に顛つは白菊特攻の振りしチーフよ和田島の磯

燃える太陽の西にかたむく畑の中季節の移ろい告げる蟋蟀

炎昼に真向いて咲く白木槿はもの言わぬ物悲しくもあり

負傷した夫を案じてタカさんが稲刈りしてくださる汗よ貴し

助手席に楽しく喋る老母がいる野菅草咲く病院通いも

ささやかな吉報ありて玄関のカサブランカは終日かをる

片陰を選びて歩く商店街ひとつシャッター又閉ざされる

日すがらの夏日の花壇に夕の水やればゴクリと音の聞こえる

国家とは政権とは民主主義とは自由とはみんな考えてくれい

ツクツクと法師蝉鳴く立秋のお墓の掃除継ぐ者のなし

亡夫の腕に五十二年を守られて消しゴム使用の思い出笑まう

一茎に八輪咲いた夏水仙は居間の小さな打ち上げ花火

また一つ歳を重ねし今日からも平和な日本に生きていきたい

鹿島壽美子

俳句

阿南市俳句連合会選

塀を越え皇帝ダリア微笑みぬ

静謐の峰宮参り初日の出

大屋根の安寧守る初日影

思わざる長居の帰途や月冴ゆる

冬椿見上げる先の真つ赤なり

約束の着信音や冬木の芽

焼芋を頂き避難訓練終ふ

思い出に浸る山畑寒鴉

五日にて富士の麓へ戻りけり

なるようになるしかないと春待てり

河内 音

山野 賢治

青木 慧

谷中喜代子

東明 陽子

中川よし子

末岐 美子

岡本 隆子

末広なおむ

中分 明美

川柳

阿南川柳会選

変わらないか只それだけの父の愛

あなただけが頼りなんです旦那様

うっかりは遺伝するのかもしれないのか

冷凍のごはんチンしてハイどうぞ

ああ怖いモミジマークに追い越され

不揃いの野菜有機という誇り

ラグビーのルール覚えて熱入る

一般応募

長電話切るのに困るタイミング

マスク取り腹の底から笑いたい

お名前は出身地はと花に問う

渡邊 浪漫

二階千代美

近藤 大地

多田紀久代

西田 修身

原 公美子

持木 寿栄

秋川 和子

島尾美津子

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

琴江川

原 美智子

銀波漾漾琴江流

朝夕佳音誘鴨游

漫步只看春靄裏

飛花片片入輕舟

琴江の流れ

朝夕佳音 鴨游を誘う

漫步只だ看る 春靄の裏

飛花片片 輕舟に入るを

線路・道路兩用車

吉形 和恵

道路鐵輪兼用車

海陽百里再再過

不看世界先行巧

挑戰未休情作渦

兼用の車

海陽百里 再再として過ぎたり

み 看ずや世界先行の巧

な 挑戰未だ休まず情渦を作す

太龍寺舎心嶽弘法大師坐像

田中 公

衣荒風雨千尋嶽

身富春秋十九齡

百萬眞言有誰應

虛空菩薩曉天星

千尋の嶽

身は春秋に富む 十九の齡

百万の眞言 誰有りてか応えん

虚空の菩薩 曉天の星

